

## 考え方のお国柄 Points of View

日本人の皆さんはリスト好きですね。美しい滝ベスト 20 や、美しい庭園ベスト 10、埼玉で雨降りの午後の過ごし方オススメ5 など、リストを作成する人々が下した判断はとても人気があり、指示されています。

そんなリストの 1 つ、日本三景のうち松島と宮島には私も実際に訪れましたが、天橋立は思案中です。というのも、行きたいと思っていなかった場所に行かせようとする策略を感じてしまうのです。ただ、実際に多くの人が訪れていることを考えると、このトップ 3 が観光業界に貢献していることは間違いありません。

日本のランキングに対するアプローチが上からのトップダウン型で真面目なものである一方、英国では、もっと庶民の意見を反映されたボトムアップ型で気楽なものです。英国には公式のリストはありませんが、調査は定期的に行われ、お気に入りや素晴らしいものを決めています。湖水地方のウオスト湖は国民的なお気に入りとして支持され、ソールズベリー大聖堂も調査で一位を獲得しています。選ばれるプロセスは、活発な議論を呼び、ニュースになることもありますが、あまり深刻にとらえられてはいません。

なぜこのような違いが？ 一般的に英国人は、ベストや美しいというはっきりとした定義づけをあまり信用せず避けがちです。英語という言葉にも理由があるかもしれません。‘Opinion(意見)’ という単語には、否定的な意味合いがあり、今でも英国人は意見を遠まわしに言う傾向があります。確実でない曖昧な言葉を好み、主張するよりも提案、表現をはっきりするよりも弱めることを好みます。例えば：

[The view from parliament hill is one of the most beautiful in London.](#) (ハムステッドのパーリアメントヒルからの眺めはロンドンで最も美しい景色のひとつです。)

[Loch Lomond is among the loveliest fresh water lakes in Scotland.](#) (ローモンド湖は、スコットランドの中でも大変美しい湖のひとつです。)

また、言いたいことを、礼儀正しく伝えるために(実際には臆病なのですが)、‘Is regarded as...( ...とされている)’ や ‘Many people think that...(多くの人が...と考えている)’ といったフレーズを加えることが多くあります。‘Don’t blame me if you’re disappointed or I turn out to be wrong. (がっかりさせたり、私が間違っいても責めないで)’ と言うことを避けようとするためです。

結局のところ、素晴らしい眺めには何が必要とされるのでしょうか。実は、作ろうと思っても作れないものでは？ 私が今まで最も釘付けになった光景は、ウエストロンドンで友人の家に行く途中、道に迷い途方にくれて歩いて暗い夜、私の目の前に現れました。道の突き当たりの角で曲がり、上を見上げたところ、古いツインタワー\*のあるライトアップされた、まるで宇宙人の母船のような巨大なウェンブリースタジアムが突如目の前に現れ、圧倒されました。( \*改修前のウェンブリースタジアムのシンボル)

東京の道でも、同じように驚愕したことが…。相撲のまわしのような巨大な帯を裸姿に巻き、両肩に小さな犬を乗せたお年寄りが道を歩いていたのです。誰がそんな光景を予想できるでしょうか？

リストに関する私の思い込みはさておき、最後に、私のオリジナル英国三景を挙げると、

- [スコットランドのパス](#): スコットランド版の京都 – 見逃されがちですが、エジンバラへ行くよりもオススメです。珠玉の一言。
- [ウェールズのポートメイリオン](#): 北ウェールズにあるイタリア風の美景 – 英国にありそうでない場所です。
- ロンドンのパーリアメントヒル: 英国で唯一法律により守られている眺め – 皆さんの目で是非、一度確かめてください。

私からのアドバイスとしては、旅行前に、先入観をもったり、期待しすぎたり、写真を見たりせずに、これらの場所を気軽に訪れてみてください。到着したら、ぶらぶらと歩いて目の前にあるものを眺めてみてください。眺望を探さなくても、風景が自然に現れるはずです。